

### 3 課題と今後の対応

本市の下水道は、これまで「生活環境の改善」、「浸水の防除」、「公共水域の水質保全」を基本的な役割として着実に事業を進め、今日汚水については概成し、公共水域の水質も著しく改善されるほど、大きな成果を上げてきた。

しかし、雨・地震等の自然災害に対する備えや施設の老朽化への対応に加え、「世界の環境首都」実現に向けた都市環境のさらなる改善、既存ストックのさらなる活用など、以下のとおりの取組むべき課題がある。

- (1) 雨や地震等の自然災害に対する備え
- (2) 下水道施設の老朽化
- (3) 川や海の水質保全
- (4) 良好な水辺空間の創出への寄与
- (5) 低炭素化に向けた取り組み
- (6) 既存ストックの活用
- (7) 国際貢献
- (8) 地域コミュニティとの連携
- (9) 広域化に向けた取り組み

### 北九州市下水道ビジョン

平成22年度から令和2年度を計画期間として、今後重点的に実施する下水道の取り組み方針を定めた「北九州市下水道ビジョン」を策定した。

#### 基本理念

『水めぐる“住みよいまち”をめざして』

#### 目標

- 1 安全で快適なまちを支える ～市民の暮らしを守る～
- 2 水や資源の循環と低炭素化を進める ～よりよい環境をつくる～
- 3 下水道の「たから(資産)」を活かす ～社会の活力を増進する～

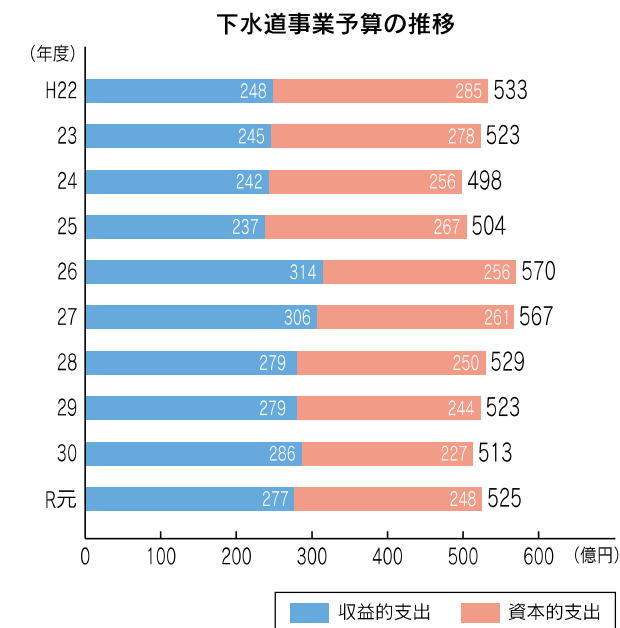
これらの目標達成に向け、目標毎に基本方針とその取り組みの柱を定め、具体的な取り組みを進める。その実施にあたっては、それぞれの施策について、できる限り数値目標を設定し、内容や成果を市民に分かりやすく提示する。

目標	基本方針	取り組みの柱
1 安全で快適なまちを支える ～市民の暮らしを守る～	1 安全で安心なまちをつくる	A 雨に強いまちをつくる B 地震に強い下水道をつくる
	2 清潔で快適な暮らしを保つ	C 下水道施設を健全に維持、改良する D 下水道施設を長持ちさせる
2 水や資源の循環と低炭素化を進める ～よりよい環境をつくる～	1 川や海への負荷を減らし、水環境を保全する	E 汚水の処理水質をより良くする F 雨の日に合流式下水道から流れ出る下水を減らす
	2 自然豊かで快適な水環境をつくる	G 水の循環を自然な姿に再生し、まちに潤いを取り戻す H 貴重な水資源を多目的に活用し、潤いのある水辺をつくる
	3 地球温暖化の防止に向け、まちの低炭素化を進める	I バイオマスや未利用資源から新しいエネルギーを生み出す J 施設運転のエネルギー消費を減らす
3 下水道の「たから(資産)」を活かす ～社会の活力を増進する～	1 下水道の資源や施設から新たな価値を生み出す	K 下水道の処理水や用地等を有効に活用する L 既存の技術や手法を改良する
	2 国際技術協力でアジアの発展に貢献する	M 技術やノウハウを海外に移転し、海外の技術者を育成する
	3 まちの賑わいづくりを支える	N 地域コミュニティと連携し、水辺で活動する

## 2 下水道の計画

### 1 社会資本整備重点計画

今年度は国の第4次社会資本整備重点計画の5年目となる。この国の計画を受け、当市では下記のような重点施策に取り組んでいく。



#### ○雨水整備

安全な都市づくりのため、雨水排水施設的能力アップや河川と一体となった総合的な計画に基づいた効率的な整備を推進する。

#### ○合流式下水道の改善

公共水域の水質保全のために、合流式下水道の改善に努める。

#### ○改築・更新

老朽化が進んだ下水管、ポンプ場、浄化センターの効率的な改築・更新を行う。

#### ○処理場・ポンプ場の整備

下水道の普及や雨水整備で増加した汚水や雨水に対応するため、処理場の増設やポンプ場の新設・増設を行う。

#### ○高度処理

水質環境基準に準じてリン・窒素の除去率を高め、公共水域の富栄養化防止のため、段階的に高度処理に取り組む。

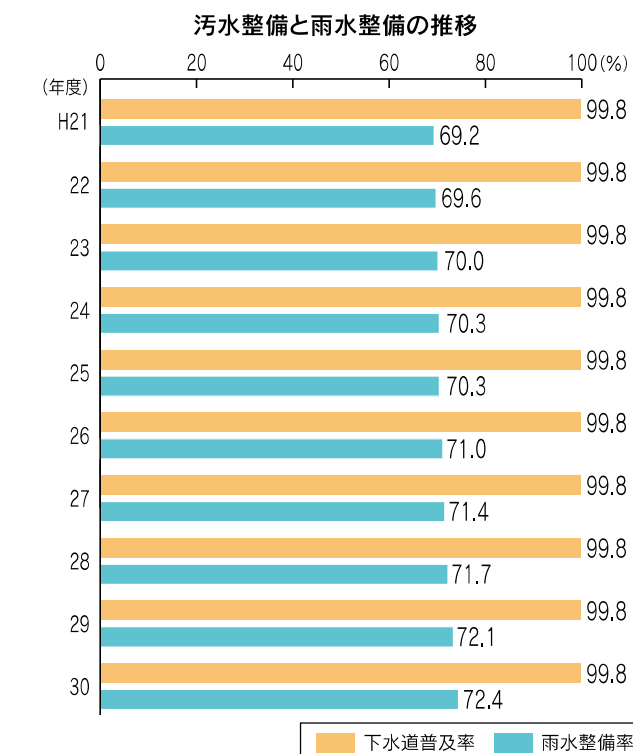
#### ○水洗化の普及

くみ取り便所改造に対する助成・貸付等の援助制度や支援制度を活用して、処理区域内の完全水洗化を目指す。

### 2 下水道整備事業

下水道を整備するためには大変な時間とコストがかかるため、計画的に整備を行っている。

下水道事業認可面積:18,751ha



#### (1) 汚水整備

下水道で整備する区域については、平成17年度末に概ね完了している。環境首都を目指す本市としては、快適な市民生活の実現と、川や海など自然環境保全のため、私道の整備や浄化槽の普及も進め、汚水処理100%の実現を目指している。

#### (2) 雨水整備

浸水に強い都市づくりを目指して、雨水排水施設的能力アップ、雨水流出抑制施設の導入、雨量情報システムの導入など、ハードとソフトの両面から対策をたて、効率的で効果的な雨水対策を進めている。令和2年度末には約73%の整備率を目指している。



金山川ポンプ場

住宅地(区画整理事業)内に建設するため、周辺地域との調和を持たせた外観